



「持続可能な世界の構築のために」

校長 佐藤 義朗

ムンバイ日本人学校は、インド・ムンバイにある学校という地の利を生かし、持続可能な社会の担い手となるべく子どもたちを育成しています。

学校経営方針の文言に「持続可能な世の中にするために、私たち人間が本気になってその解決のために取り組んでいかなければならない時期にきています。そのため子どもたちには、これらの事象を他人ごとと捉えず、当事者意識をもって『自分たちに何ができるか?』を考えさせる教育活動を確実に推進する必要があります。」また学校経営～教育研究のテーマには「自分を見つめ、自らの成長に積極的にかかわろうとする、グローバルな人材の育成をめざして」～インドを理解し、「世界と日本」を意識し、持続可能な世界に寄与する人材の育成～・SDG sの17の目標を意識した教育活動の推進・ムンバイにある「生きた教科書」から学ぶ校外学習・現地校との交流・英語活動の充実を掲げています。

先日、5年生から9年生はバンガロール方面の修学旅行で、日本の企業を訪問し各企業のSDG sの取り組みについて学んできました。S社では、サステナブルな取り組みとして、リサイクルしたプラスチックで作った商品、電気をあまり使わないTV、ダンボールを少なくした箱についてお話をいただきました。環境のことを第一に考えながら商品を開発していくことが社会に貢献する企業の在り方であることを学びました。

また、小学部3年生の社会科では、学校の近郊でフィールドワークを行いました。その中で「私たちが住むまちの工夫を見つけよう」のテーマで、ギャレリアモール、ヒンドゥー教寺院、IITマーケット、豪華なフラット（マンション）であるシリコンバレーの各場所を訪れ気づいたことやインタビューしてわかったことを自分の言葉や絵で表現して大きな地図にまとめました。シリコンバレーを見学したあとに、児童から「みんなが安全なことが大切。貧しい人にも無料の家をあげるべき」という声があがり「お金もち向けの家でプールやジムもあり日本人もたくさん住んでいる。でも作っている人は住めない」「貧しい人のための家をふやすにはお金がかかる。作る会社の負担になる」「お金もちの人から寄付してもらおう」など様々な意見が出ました。環境の視点では「無料の家を作るのにCO2が出る」「別の場所に緑を増やしてはどうか?」などなど探検を通じてSDG sの17の目標に関連して地域について主体的に深く考えていました。

作文からは「（スラム街の人は）重労働で給料もかなり少ないにも関わらず、みんな自分の仕事を気に入っていて、生活を楽しんでいるとのことでした。自分たちの生まれた境遇に文句を言ったり、悲しんだりするのではなく、その中で前向きに頑張っているということに感動しました。それと同時に、今までの自分を振り返り少し恥ずかしくなりました。夕飯に苦手なものが出たら残したりしていましたが、毎日食べるものに困らない生活ができている自分はすごく幸せなんだと気づきました。自分はかなり恵まれているのだから、ダラヴィの人たちのように今の状況に感謝してもっと頑張りたいと思いました」と学びから自分を見つめ自らの成長に積極的にかかわろうとする姿勢もうかがえています。（現5年生児童）

縁あって、インドのムンバイに住み、ムンバイ日本人学校で学ぶ子どもたちにとって、この地から学ぶものはたくさんあります。これからも子どもたちのもって生まれたものを引き出し、持続可能な世界を作るため、その個性・能力を社会化し世の中に貢献する人材を育成していきたいと思います。

水泳授業を楽しみました

太陽がまぶしいインドの5月。昨年度はモンスーンの関係で回数が少なかった水泳授業でしたが、今年は天候に恵まれ予定回数すべて実施することができました。子どもたちの泳ぎは回を重ねるごとにどんどん上達。息継ぎに苦戦している人も見られましたが、指導の成果もあり、全体的にはフォームも最初から比べるとずいぶんきれいになりました。また、タイムがはやくなったり、泳げる距離がのびたりと、それぞれに進歩が見受けられました。思う存分泳ぎを楽しむ子どもたちの姿が印象的でした。



修学旅行報告会



6月18日(木)3限目には、5～9年生による修学旅行〔バンガロール〕報告会が行われました。今回の修学旅行は、次の3つを目的として実施しました。

◎インドの文化や歴史に触れ、自分たちが暮らすインドへの関心を高める。

◎学年の異なる仲間との協働活動を通して、気づかいや思いやりの心を育む。

◎インドの日系企業を訪問し、「働くこと」について

学び、自身の将来につなげる。

報告会では、子どもたちが修学旅行で学んだことや感じたことを、映像を交えながら分かりやすく発表していました。目的がおおむね達成され、有意義な3日間であったことがよく伝わる報告会となりました。

「インドで活躍する日本人！」講演会

令和5年度から始まった「インドで活躍する日本人」の講演会。様々な分野、方面で活躍している方々をお招きしていきます。令和8年度、第1回は、「ぺんてる」から Pentel Stationery (India) Pvt.Ltd.で社長として活躍されている篠田哲郎様です。

ご自身の世界各地の赴任のご経歴や会社のこと、インドで販売している製品など、いろいろなお話いただきました。「ぺんてる」は篠田様が赴任されて以来どんどん業績が伸びており、インドを拠点としてアフリカ市場への開拓を視野にいれているとのことでした。SDGsにも力を入れ、「汚れた水は、ろ過してきれいに流す」「廃棄物を減らす」「一度使った製品を捨てないで繰り返し使う」「廃棄されたものをもう一度資源や原材料として製品に生まれ変わらせる」など、地球にやさしい取組みをしていることなど、貴重なお話をたくさん伺うことができました。

【児童生徒のお礼の手紙より一部抜粋】

3年児童 …ぼくはぺんてるのかいしゃのことがいっぱい聞けて、ものすごく感動しています。ぺんてるのプレゼントもよういしてもらえるとはいい思いました。ぼくは文房具には、きょう味がなかったけれど、しのださんのお話を聞いて、とてもきょう味をもちました。また、おこしください。

中学2年…いつも使っているぺんてるについて、お話が聞けてとても貴重な体験になりました。世界中を飛び回って仕事をされていて、自分はきっと大人になってもそんなことはできないと思いました。また、インドの文房具店の数が、インドに公式で認められている店舗数の4倍はあることに驚きました。私が一番印象に残っているのは、通販サイトが開設されることです。インドで開発、販売されている製品だけでなく、日本の製品がこっちでも買えるようになるのが楽しみです。ほんとうにありがとうございました。

